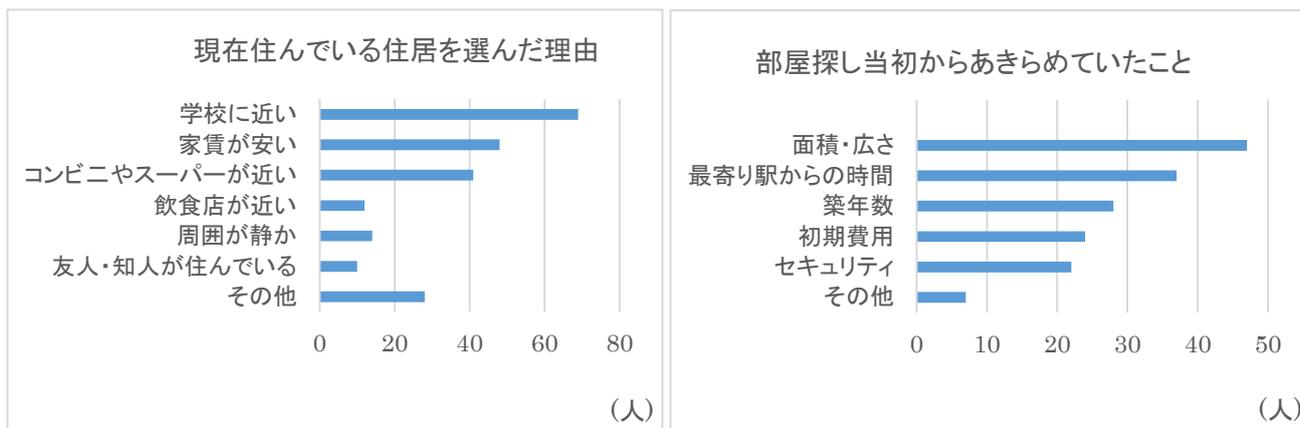


部屋を効率よく使うための家具の提案

A2201602 阿部実貴恵 A2201634 渡部萌生

研究の背景

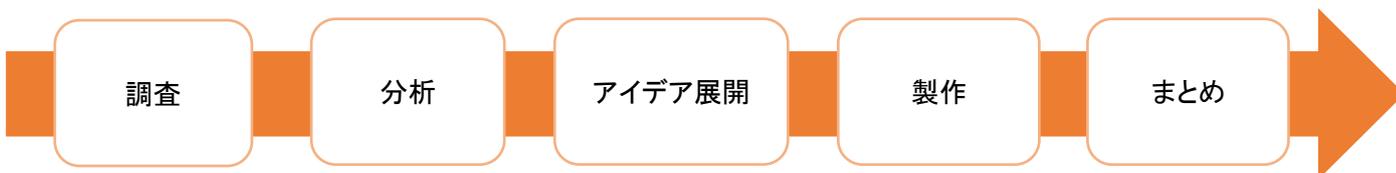
会津短期大学の在学生の男女比は、女子学生が87.5%(281名)、男子学生が12.5%(40名)である。学生生活アンケート結果によると会津短期大学に通う学生のうち、約60%が一人暮らしをしている。会津短期大学の現在一人暮らしをしている女学生を対象にアンケートを行い、94人が回答してくれた。部屋の広さは10㎡~15㎡が多く、公共料金を除く家賃は月3万から3万5千円が最も多いことがわかった。また学生が現在の住居を選んだ理由としては、1位学校に近い(73.4%)、2位家賃が安い(51.1%)、3位コンビニやスーパーが近い(43.6%)であった。また学生が部屋を探す際、当初から「あきらめていた」項目として、1位面積・広さ(50%)、2位最寄り駅からの時間(39.4%)、3位築年数(29.8%)が挙げられた。学生であるため学生生活を優先するのが当たり前だが、その分、家の快適さを妥協しなければならない状態なのではないか、生活空間面での快適さを犠牲にしているのではないかと思い、その点の改善が望めないうろかと考えた。このことから「あきらめていた」項目の1位である面積・広さに着目して、一人暮らしの狭い部屋をより効率よく使う方法を研究していく。



研究の目的

一人暮らしの学生の部屋の生活空間の改善を目的とする。

研究のプロセス



●調査・分析

◇ アンケート調査

- 会津短期大学女子学生へのアンケート調査を行ったことにより、現在の具体的な問題点とその原因を調査した。調査した結果、会津短期大学女子学生の現在の部屋は「学校から近い」ということを第一に考え、部屋を探す際は当初から「広さ・面積」ということをあきらめていることが分かった。

◇ 市場調査

- 家具屋に行き、既存の家具を調査した。また店舗への取材も行った。具体的には無印良品、東京インテリア、ニトリ、IKEYA、うすい、大須家具、ダイユーエイト、カンセキ、カインズホームといった店舗で調査をした。東京インテリアやうすい、大須家具といった店舗の家具は学生が使用するには高価で不向きであり、デザインが家族や年配向けであった。ニトリやIKEA、無印良品は比較的安価で学生向けであると感じた。また女性が好む色は白であることが分かった。清潔感や明るさといった点から人気のようだ。デニム生地は丈夫と感じられ見栄えも良いため男女問わず人気であった。このようなことから段ボールに塗装しバリエーションを増やすことで、段ボールそのものの色がなくなり、良くなると考えた。



◇ 訪問調査

- 現在一人暮らしをしている会津短期大学女子学生の収納の仕方、家具などを実際に見てきた。また、良いところと困っていることを聞いてきた。やはり収納に不満を感じているという人が多かった。衣類や本・教科書等の収納が足りず、うまく収納できないとのことだった。また実際に使用している家具の大きさを調査するために再度訪問調査を行った。どのくらいの衣服が収納されているか、どのくらいの大きさの家具を使用しているかを把握することができた。



◇ web 調査

- 当初は暖かさ・ぬくもりといったイメージのある木を検討していたが、木を使用した家具は値段が高く、家具をすべてそろえるとなると費用がかかってしまうことから、違う素材を検討した。そこで私たちは紙・ダンボール類といった低コスト素材を使用することに決めた。紙・ダンボール類を使用した既存の家具製品を web で調査した。
- 衣装ケースのサイズに関して既製品を調査したところ、1ケースあたりの高さが約20cm～30cmであり、チェストだと1段あたりの高さが20～23cmであった。強度の面では高さを低く設定したほうが丈夫である。衣服が収納しやすい、また強度があるという二点から高さを20cm前後とすることにした。

●アイデア展開

部屋の空いたスペースを利用した収納家具を考える。訪問調査をした際、机の上下やベッドの上下に空いたスペースがあることに気がついた。そのスペースを収納として活用することで、収納の場所を多く確保できる。短期大学生用ということで使用期限は2年である。ボックスが連続しているため強度があり、引越しのときにダンボールを処分することを考え、ボックスの組み立て、解体をできるようにした。サイズ感や形をターゲットに合わせた斬新なデザインを目標とした。

成果物(完成作品)

空いたスペースを利用し高さを活かした収納家具



衣服の収納に使用することを考えて制作した。収納できる部分の高さは、既製品の調査と訪問調査で衣服を収納している家具を測り、220mmに設定した。幅は衣服をたたんだ際に入る幅、強度を考え、できるだけ多くのボックスを並べるために310mmに設定した。奥行きは460mmである。壁側のほうは引き出すことができないため、上のボードを取り外せるようにし、使わない衣服を収納できるようにした。収納できる部分の高さは225mm、幅は336mm、奥行きは464mmである。



掘りごたつにすることにより斬新なデザインを目指した。足を伸ばせることもあり座りやすくした。いすの高さは日本人女性の平均身長・座高・股下を基準とし、しっかり座れて快適に食事ができる高さとした。机の大きさは訪問調査の際に計測した会津短期大学女子学生が実際に使用しているサイズを基準とした。

考察

収納家具といっても短期大学生活は2年間であるため、高級で長期間使用できる家具を買うことはあまり望ましくない。2年間だけ使用することを考えたら、その後の処理も楽である段ボールを使うことはひとつの方法であると考えられる。しかし紙であるため耐久性に不安があるのは確かである。今回、その部分での実験や調査が十分ではないことが反省点である。

1R、1Kといった部屋の中に利用できるスペースを探し、2つの収納スペースを確保できたことは、少しでも快適に生活できる手助けになったと考えられる。また、調査結果で学校の近さを重視したアパート選びが多く見られたが、収納家具の提案によって、アパート選びの幅が広がるのではないだろうか。